



国民の森林・国有林

中部森林管理局

〒380-8575長野市大字栗田715-5

☎(026)236-2531

<http://www.chubu.kokuyurin.go.jp/>

広報

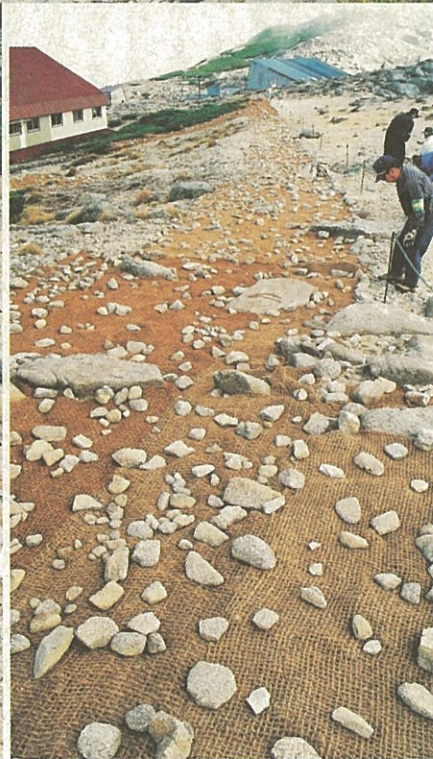
中部の森林



ヤシマツトを背負って



ヤシマツトを敷設する参加者



敷設されたヤシマツト

木曾駒ヶ岳でボランティアと 植生復元作業

(P 4～5 に関連記事)

主な項目	○ 新任幹部挨拶 P 2
	○ 森林環境保全ふれあいセンターの活動 P 4～5
	○ 各地からのたより P 5



この広報誌に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

新任幹部挨拶

新次長(名古屋事務所長)

矢内 公男



十月一日付けの異動により次長(名古屋事務所長)としてお世話になることになりました。

当局管内での勤務は初めてでありすが、アルプスの山々に囲まれた美しく、自然環境、我が国を代表する銘木木曾ヒノキの供給等、伝統ある中部局に勤務できることを光栄に、また、身の引き締まる思いであり、皆さんとともに業務に全力で取り組んでいきたいと考えております。

さて、新生国有林として二年目になります。国有林を名実ともに「国民の森林」とするためには、公益的機能の一層の推進と、これを確実に推進するための財政の確立(自己収入の確保)が重要です。

このため、業務の実施に関する情報の開示や、国有林の公益的機能発揮への様々な取り組みの宣伝・広報を積極的に行うとともに、森林環境教育や国民参加の森づくり等の地域・関係団体等のニーズを的確に把握し、これを反映する対話

型の取り組みが、国有林に対する幅広い理解と支援を得られる上で極めて重要です。地域の特徴を生かした各種の取り組みを行ってまいります。名実ともに開かれた「国民の森林」の実現を目指し更に取り組みを進めていきたいと考えております。

また、収入確保とともに、森林の健全性の維持、地球温暖化防止の観点から二百万都市名古屋市などの大消費地における、木材利用推進のためのPR活動、供給体制の整備など木材の需要拡大に積極的に取り組んでいきたいと考えております。こうした課題に取り組んでいくため、災害のない、健康で明るい職場環境づくりに努めるとともに、皆さんと楽しく仕事をさせていただきたいと考えておりますので宜しくお願いいたします。

◆矢内次長の略歴

- 生年月日 昭和24年1月18日
- 本籍 北海道上川郡清水町
- 略歴 北海道清水高等学校卒(S42・3)
- 昭59・4 養成研修専攻科卒業
- 々42・4 帯広局標準採用後、弟子屈署、旭川支局計画課、林野庁業務第一課、造林保全課、森林組合課を経て
- 平6・4 秋田局合川営林署長
- 々7・8 秋田局販売課長
- 々10・4 林野庁職員課課長補佐
- 々12・8 林野庁林政課課長補佐(人事)

班担当

- 々14・4 九州局総務部長
- 々16・4 林野庁林政課管理官
- 々17・10 中部局次長(名古屋事務所長)

新総務部長

木内 希沙彦



この度総務部長を拝命しました木内でございます。中部森林管理局管内は約八年ぶり三度目の勤務となりますが、伝統ある当局の一員として皆様とともに頑張りたいと思いますのでよろしくお願いたします。

さて、国有林事業の抜本的改革は平成十年度からの集中改革期間を経て、現在更なる目標に向かって鋭意取り組み中ではありますが、その推進力として私ども現場職員の力の結集がより重要となることは言うまでもありません。

また、抜本的改革を成就させるためには、まさに「ローマは一日にしてならず」という格言通り世代を継ぐ長い年月が必要となります。粒粒辛苦、日々の業務を一つ一つ地道に積み重ねていく努力こそ大事かと思えます。

そのためには、健康で、明るく楽しい職場の存在が欠かせません。つまり、健康は安全の源であり、明るく楽しい職場

は活気と創造の源と考えるからです。こうした職場環境こそが、長期に及ぶ改革遂行のエネルギーを持続的に醸成していく要素となりうると言っても過言ではないでしょう。

このことを肝に銘じ、より良い職場環境づくりに心がけ、そのための潤滑油となり得るよう精一杯頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。

◆木内総務部長の略歴

- 生年月日 昭和24年4月28日
- 本籍 長野県佐久市
- 略歴 中央大学法学部通信教育課程卒業
- 昭54・4 養成研修専攻科卒業
- 々44・4 長野局王滝署採用後、長野署、前橋局企画調整室、監査課、林野庁企画課を経て
- 々62・4 財団法人国際花と緑の博覧会協会専門役
- 平3・8 長野局経営部企画官
- 々4・8 長野局上松営林署長
- 々7・12 長野局森林活用課長
- 々9・12 林野庁業務第二課資産利活用管理官
- 々12・3 林野庁業務課課長補佐
- 々13・8 北海道局業務管理官(総務担当)
- 々15・4 林野庁業務課企画官
- 々17・4 林野庁管理課監査官
- 々17・10 中部局総務部長

お世話になりました

前中部森林管理局次長(名古屋事務所長)

山崎 信介

平成十六年四月の赴任以来一年半の間、中部森林管理局の皆様には大変お世話になりました。

新生中部森林管理局の発足、名古屋事務所の新設といった、正に国有林の新たな門出の時に、初代事務所長として皆様と一緒に仕事をさせていただいたことは、私個人にとっても大変感慨深いものでした。加えて、久しぶりの国有林勤務でしたので、赴任当初は正直なところ戸惑いと驚きの日々の連続で、名古屋事務所

の職員の皆様をはじめ、局内外の関係者の皆様には大変迷惑をお掛けしたのではないかと思っています。転勤が定めの役人人生ではありませんが、決して長いとはいえない在任期間でした。そのため、振り返ってみますと、仕掛品の形で後任や職員の皆様に引き継がざるを得ない案件が多く、その点でも大変反省しております。

(3) 平成17年10月
私の信念のひとつは、後任者に引き継ぐ案件の量は、前任者から引き継いだものよりも少ないか、最低でも同じ程度の量にしなければならぬということですが、今回はその目標を達成できたのか必ずしも自信がもてません。ただし、そうした意気込みで努力したことは間違いありませんので、その点に免じてご容赦い

ただくようお願いいたします。

仕事を離れての心残りは、地域の有名なお祭りを見たり参加することができなかったなど、地域の文化や伝統を必ずしも十分堪能できなかったことです。

週末に東京の自宅に帰ることが多かったことが最大の原因ですので、自業自得と諦めなければなりません。機会を見つけてぜひとも再挑戦してみたいと考えています。

最後に、中部森林管理局が「和」の精神でますますご発展されますことと、職員の皆様のご健勝をお祈りして、お別れのご挨拶とさせていただきます。

前総務部長

谷口 哲規

中部森林管理局には、平成十五年八月から二年二ヶ月間勤務させていただきましたが、二度目の勤務ということもあって公私共に充実した楽しい時間を過ごさせていただきましたことに、心から感謝申し上げます。

十六年四月に、名古屋分局との統合等が行われ、中部森林管理局が富山、長野、岐阜及び愛知の四県を管轄する新たな組織として発足しました。これに伴い、管轄区域が広範になったことによる交通事故等職員の安全の確保や円滑な業務運営のための研修・会議、あるいは「開かれた国民の森林」の実現のための情報の発信等々に職員の皆さんと一緒に取り組

ませて頂きました。また、多くの通達や規則等の統一、本年八月の労働組合地本の統合に伴う協約等の整理・統合を行いました。いずれも局及び分局における

これまでの長い歴史や労使関係の中で、それぞれに制定・締結されてきた重いもので、多くの課題を解決する必要がありました。これについても、多くの職員の熱意と努力に加え関係機関並びに業界等のご理解・ご協力をいただき、大きな混乱もなく進めることができました。今日、この通達・規則や協約等に基づき業務が円滑に推進されていることに改めて敬意と感謝を申し上げます。

日本の屋根といわれる日本アルプスから名古屋市をはじめとする大都市まで、重要かつ広範な区域の国有林を管轄する中部森林管理局の役割は大きく、国民の期待も高いものがあります。

最後に中部森林管理局の発展と職員の皆様のご健康、ご活躍を祈念申し上げます。離任のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

林野庁人事(抄)

九月三十日付

▽林野庁国有林野部付

退職(独立行政法人勤労者退職金共済機構審議役) 中部森林管理局次長(名古屋事務所長) 山崎 信介 十月一日付

▽中部森林管理局次長(名古屋事務所長) 林野庁林政部林政課管理官兼林政部林政課課長補佐(人事総括) 矢内 公男

▽林野庁林政部林政課管理官兼林政部林政課課長補佐(人事総括) 中部森林管理局総務部長 谷口 哲規

▽中部森林管理局総務部長(林野庁国有林野部管理課監査官) 木内希沙彦

中部森林管理局人事

十月一日付

▽環境省出向(中部地方環境事務所長野自然環境事務所野生生物企画官) 局企画調整室管理官兼森林整備課 柳沢 盛一

▽環境省出向(中部地方環境事務所里地里山保全専門官) 局経理課支出係長 道家 良江

▽局経理課支出係長(環境省中部地区自然保護事務所保全調整専門官) 佐藤 純子

▽林野庁出向(森林整備部計画課付) 国土交通省出向(土地・水資源局土地利用調整課計画指導係長) 局指導普及課企画係長 原口 竜成

▽局指導普及課企画係長(北信署業務課技術専門官) 古瀬 美樹

▽北信署業務課技術専門官(局職員厚生課付) 三井 正

▽局治山課技術指導官(治山担当名古屋事務所) 岐阜署業務第一課長

土田 愉貴宏
▽岐阜署業務第一課長 (岐阜署業務第一課技術専門官) 日置 順昭

▽岐阜署業務第一課技術専門官 (飛騨署業務第一課技術専門官) 内藤 治夫

▽飛騨署業務第一課技術専門官 (岐阜署業務第一課付) 反中 孝一

▽木曾署南木曾支署阿寺森林事務所 (木曾署南木曾支署業務課経営係) 佐野 智一

平成十七年度第二回の 森林管理署長等会議を開催

九月二十一日～二十二日、森林管理局において署長等会議が開催され、局長等会議関連の指示、本年度の業務運営等について打ち合わせが行われました。

全体会議では、山崎次長から局長等会議における幹部からの指示事項を踏まえ、

- ①十八年度林野庁概算要求
- ②環境税 (仮称) の創設に向けた対応
- ③収入確保に向けた取組
- ④三位一体改革への対応
- ⑤その他国有林野の管理経営等について訓示がありました。

引き続き各部長から、

◆総務部長説示

- ①労働安全衛生の確保等 (労働安全



署長等会議の様子

の確保、交通安全の確保、蜂刺され災害防止、メンタルヘルス対策)、②網紀の肅正、③労働時間短縮のための取組、④研修・広報、⑤給与の全額口座振込、⑥労働協約等の見直し等について、

◆計画部長説示

- ①計画樹立、②境界の保全管理と測定技術の定着、③国民参加の森づくりの推進 (ふれあいの森、木の文化を支える森づくり、民間団体等の多様な活動を推進するための協定)、④森林環境教育の推進、⑤貴重な森林や動植物の保護対策、⑥技術開発の推進と普及
- ⑦林野・土地売り払い関係、⑧分収林関係、⑨官行造林関係、⑩登山道の管理、⑪国有財産の管理関係等について、

◆森林整備部長説示

- 〈十七年度事業〉①販売事業の進捗状況、②素材生産事業等の進捗状況、

- ③治山・林道災害発生時の速やかな対応、④保安林制度の適切な運用、⑤会計検査、⑥林道における災害防止、⑦請負事業体の災害防止

- 〈十八年度事業〉①収穫量・生産量、②伐採系森林整備事業の事業内容の周知徹底、③自然環境への配慮、④景観形成事業の推進費等について、

の説示がありました。さらに各課長等から連絡事項等の説明後、意見交換があり会議を終了しました。

平成十七年度 国有林野管理審議会を開催

〔国有林野管理課〕第六十一回中部森林管理局国有林野管理審議会を九月二十八日、局大会議室において開催しました。

当日は、審議会委員十一名、当局から山崎次長、長江計画部長ほか関係者が出席し、名古屋市内の高見及び小幡の公務員宿舍敷地の売払いの二議案について審議されました。

議案の説明にあたっては、プロジェクトを使用し処分箇所の位置関係、宿舍の状況、周辺の様子等の現地説明が行われました。

審議の中では、委員から「国有財産の適正で適期の管理処分」、「都市部での森林、国産材活用のPR」といった意見や、国有林野事業の運営への助言、要望等も活発に出され、原案どおり売却うことで

答申されました。

最後に委員の皆さんへ一層の国有林野事業及び森林・林業へのご支援をお願いし、審議会を終了しました。



管理審議会の様子

森林環境保全 ふれあいセンターの活動

「NPO法人木曾ひのきの森」

史跡の森で森林観察会

「ふれあいセンター」NPO法人木曾ひのきの森では九月二十三日、活動拠点である赤沢自然休養林と違った森林を勉強するため、木曾署城山国有林において森林観察会を実施しました。当日は十名が参加し、鷹野ふれあいセンター所長

の案内で権現滝やその水源になる湧水、御嶽山が見える兎野山、城山の語源になっている中世の城郭跡などを一日かけて森林観察をしました。

途中で所長から、城山国有林の歴史や成り立ち、紅葉や森林土壌の仕組、水の循環や森林の働き、天然更新などについての解説を聞き、また、直径一・六メートルの巨木やコウヤマキ林、ブナ・クリの大木に感動し、栃の大木の下に一面に落ちている栃の実にびっくりしたりしながら、普段インストラクターとして活躍されている赤沢自然休養林との違いなどを口々に話しながら和気藹々、秋の気配が漂う遊歩道で森林観察を楽しみました。



自然について説明する鷹野所長

ボランティア等による 植生復元作業を実施

(表紙の写真)

「ふれあいセンター」当センターでは、平成十六年度から取り組んでいる「自然再生推進モデル事業」の一環として、中央アルプス木曾駒ヶ岳の登山道周辺において九月三十日、高山植物等の植生復元のための作業を地元ボランティア等の協力を得て実施しました。

この日の作業は、信州大学農学部森林科学科の有志のほか、NPO日本高山植物保護協会、中央アルプスガイド組合、長野県、宮田村、駒ヶ根市など総勢二十六名の参加で行われました。

参加者は、高山植物を保護するための植物繊維マットを、全員で分担して駒ヶ岳ロープウエーの終点千畳敷駅から宝剣山荘付近まで運び上げた後、裸地化の特に著しい登山道周辺で敷設作業を行いました。

最初は大部分の参加者が慣れないこともあり、何度もマットを張り直しましたが、慣れてくるにつれ次第に作業効率も上がり、お昼過ぎには予定どおり全ての作業が完了しました。参加者は、一様に自分たちの作業の成果に満足した様子で、重い荷を背負った登りとは反対に軽い足取りで現地を後にしました。

本年度の作業はこれで終了ですが、当センターでは、来年度以降もボランティア

ア団体等との連携を図りつつ、引き続き植生復元に向けた取り組みを実施していきたいと考えています。



登山者の視線を浴びての作業

各地からのたより

森林倶楽部特別企画 「森の巨人たちを訪ねる」

「指導普及課」森林倶楽部の特別企画「森の巨人たちを訪ねる」を九月十四、十五日の両日、会員二十五名の参加を得て飛騨・岐阜管内で開催しました。高山市の平湯キャンプ場から、林野庁の巨木百選「平湯の大ネズコ」と日本の滝百



平湯の大ネズコの前で記念写真

選「平湯大滝」の見学をし、その後、一之宮町へバスで移動。「宮の大イチイ」の見学をし、宿泊場所のあさぎり荘へ夕方到着。夕食をとりながら自己紹介などで会員相互の親睦を深めました。
翌十五日は、赤沼田天保林遊歩道を下レッキングしながら「天保の大ヒノキ」等を見学。その後バスで小川長洞試験地へ移動し、ヒノキ間伐展示林等の見学をしました。
会員からは「国有林の試験地への取り組みを学ぶことができた。」「巨木の大きさ雄大さに圧倒された。」「ゆっくりのんびりなトレッキングで良かった。」などの感想をいただき、楽しい二日間となりました。

愛知万博で国有林をPR



熱心に説明する花見署長

〔木曽署〕愛・地球博 瀬戸会場の市民パビリオン対話ギャラリーにおいて、八月二十九日から九月二十二日まで「一〇〇〇年スパンのものづくり」仏像と森のプロジェクトが開催され、木曽署では九月十一日と、署長ほか二名が「仏像のふるさと」（木曽の国有林）と題して「地球の授業」を行いました。

当日は、万博会場の入場制限がされるほどの賑わいで瀬戸会場も大変な混雑でした。授業は六回行われ、木曽谷における国有林の位置づけと森林の状況及び木曾ヒノキの生い立ちについて学習をしました。授業は好評で多くの人が熱心に興味深く聞き入っていました。終了後は、色々な質問が出され林業に対する関心の高さが感じられました。

木曽・東濃署管内において 三ツ紐切りで御船代木を伐採

〔木曽署〕九月十七日、木曽署小川入国有林において、伊勢神宮の式年遷宮にあわせ、御神体を納める「御樋代」を納める器の材料を伐採する御船代木の伐採が行われました。

当日は抜けるような晴天に恵まれ、六月三日の御船始祭と同様、古式に則った三ツ紐伐りによって伐倒が行われました。神宮の技師による安全祈願の後、三ツ紐伐り保存会袖夫により作業が行われ、伐倒前の「大山の神」左斧、横山一本寝るぞう」の口上に続き追ひ弦が伐り放たれると大きな音とともに予定された方向に倒れ、参列者からその技の高さに拍手が上がりました。



三ツ紐伐りによる伐採風景（木曽署）



三ツ紐伐りによる伐採風景（東濃署）

〔東濃署〕九月十九日、岐阜県中津川市の加子母裏木曾国有林において、伊勢神宮の御船代祭伐木の儀が執り行われました。

御船代木は、ご神体を入れる器「御樋代」を納めるもので、六月五日に伐採された御船代木より一回り大きい、胸高直径一畝の木曾ヒノキを選木しました。

当日は、午前十時過ぎ、来賓、報道関係者など三十名が見守る中、神事が執り行われ、引き続き十二名の袖夫により三ツ紐切りによる伐倒が始まると静寂の森林の中をカーン、カーンと斧の小気味よい音が伝わり、約二時間後、いよいよ二十六畝の巨木が予定方向に倒されると、参加者から歓声と拍手が起きました。

伐倒された御船代木は、後日ヘリコプターで集材された後、伊勢神宮まで搬送されます。

あかんた 赤沼田天保ヒノキ・小川長洞国 有林試験地・五色ヶ原を視察

林政記者クラブ国有林視察

〔広報室〕九月二十九～三十日の両日、岐阜、飛騨管内において長野・名古屋林政記者クラブ合同の国有林視察を実施しました。

初日、好天に恵まれ、長野市出発組と名古屋市出発組は岐阜署で合流して加藤署長、田尻森林技術センター所長、土田業務第一課長、熊崎専門官の案内で赤沼田天保ヒノキと小川長洞国有林の試験地を視察しました。

赤沼田天保ヒノキは、江戸時代の天保七年に植栽され国内でも数少ない高齢級の人工林で歴史的・学術的に評価が高く保護林に指定されています。三・二五畝の林内には、林野庁が選定した森の巨木百選に選ばれた「天保の大ヒノキ」があります。記者クラブの皆さんからは、樹高・直径・材積などのデータや当時の植



田尻所長の説明を聞く参加者

栽の状況について質問が出されました。

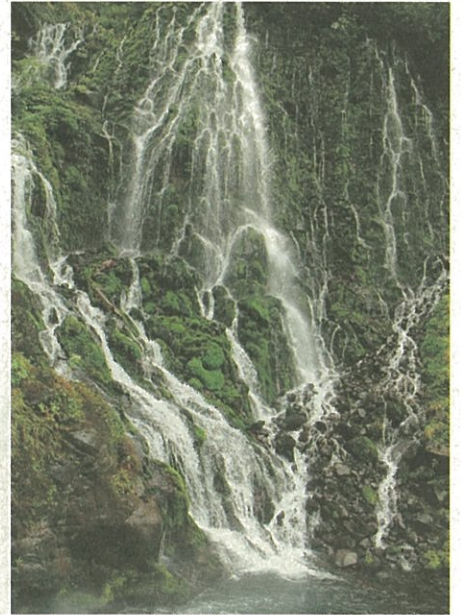
場所を小川長洞国有林に移動する途中、平成十八年に全国植樹祭が開催される下呂市萩原町の現地に立ち寄り、準備の進む現場を視察しました。

小川長洞国有林では、森林技術センターが試験を行っている「スギ品種実験林」と「ヒノキ間伐展示林」の試験地を視察しました。記者クラブの皆さんからは、「国有林が行っている試験地を初めて見た。」「間伐の効果として、間伐率四十%区は下層植生が多い。」などの意見が出されました。

翌日は、飛騨署管内の乗鞍山麓に広がる五色ヶ原を眞田署長、中谷調整官の案内で視察しました。五色ヶ原は乗鞍国有林と旧丹生川村の民有林からなる山地帯から亜高山帯までの約三千坪の広大な森林です。二つある散策コースはそれぞれ八時間を要することから、今回は、主な場所として布引滝・桜根滝・横手滝とわさび平湿原を視察しました。

水しぶきをかぶりながら滝壺から望む布引滝は壮観で、記者クラブの皆さんからは、「大変すばらしい景色だ。」「滝に圧倒された。」などの感想がありました。

今回の国有林視察は、今まで視察していない試験地や普通に立ち寄れない五色



壮観な布引滝

ヶ原を視察することができ、国有林の働きの深さとすばらしさを体験していただいた視察となりました。

善光寺三門榎葺屋根椽材原木

斧入れ式

【木曽署】 国重要文化財に指定されている善光寺三門は二五〇年前に建立され、何回か修理を繰り返してきました。

今回の修理は、平成十四～十九年の期間の予定で竣工されていますが、三門の改修を進めている中で、大正十年の大方かりな修理により建立当時は榎葺だった屋根を檜皮葺にしたことが判りました。

このため善光寺では、文化庁、関係機関と調整した結果、建立当時の榎葺に復元することとなり、材料を確保するため、五月十二日に善光寺の若麻積春実事務局長が中部森林管理局に赴いて天然サワラ材の提供を要請されたところでありま

す。(中部の森林第十四号七頁参照)

中部森林管理局では、「木の文化」を伝承する歴史的、伝統的な建築物である国宝や重要文化財の修理に対しては木材供給等の協力をするとしています。

十月四日、木曽署小川入国有林において「善光寺三門榎葺屋根椽材原木の斧入れ式」が善光寺主催により開催されました。当日は、小雨の中、お清めや供養の後、関係者約四十人が見守る中で、樹高二十八メートル、胸高直径七十四センチの天然サワラが切り倒されました。

三門修理には、一定の規格に加工された約十八万枚のへぎ板(正目に剥いた板)が必要となるため、約百八十万立方メートルの天然サワラ素材(約百五十本)を十七～十八年度の二年間で販売することとしています。

今回の修理により完成した屋根は、約四十年以上にわたり三門を風雨から守り、貴重な文化遺産を後世に伝えて行くこととなります。

※榎葺

屋根を葺く工法として、檜の皮を使用した方法を檜皮葺、板を使った方法には板の厚さにより、榎葺、こけら葺、木賊葺の三種類があります。

榎葺は、使用する板の厚さ九センチから三センチ。こけら葺は三センチから四・五センチ。木賊葺は、両者の中間四・五センチから九センチ程度のものを呼んでいます。

葺板は割りやすいサワラ・ネズコ・ヒバなどの針葉樹を使います。特にサワラは、水に強く、軽く、割りやすく、均一な材質であるため使われます。三門の葺板は、厚さ十二ミリ、長さ四十五センチ、幅六センチから九センチ程度のサワラ板を五十五センチずつずらして重ね、表面に出ない部分を竹釘で止めて使用します。

木造住宅フェアで

森林の重要性をPR

【名古屋事務所】「人と地球にやさしい住まい」をテーマに十月八～九日、小牧市スポーツ公園内パークアリーナ小牧に於いて、「木造住宅フェア二〇〇五」が中日新聞社主催、中部森林管理局・中部地方整備局・愛知県・岐阜県などの行政機関や、愛知・岐阜両県の各木材団体等の後援のもと開催されました。

「木造住宅フェア」とあって、木造住宅メーカーをはじめとする、家づくりには欠かせない企業が多数出展するとともに



榎葺に生まれ変わる天然サワラ



木とふれあいコーナー

あもろう 天然県立自然公園(天然国有林) の森林合同パトロール

【飛騨署】十月一日天然県立自然公園において、同公園協議会員の地元市役所職員、飛騨警察署及び高山警察署員、飛騨署職員ら九名が参加してパトロールを実施しました。

十月は、匠屋敷祭り(当公園の湿原の中央部に飛騨の匠の始祖といわれる奈良朝の仏師「鞍作鳥」を祀る匠堂の祭り)をはじめ、世界遺産の合掌集落のある白川郷のどぶろく祭りなど地域の祭りが多くあります。紅葉の名所である天然峠付近の原生林が鮮やかに紅葉も見頃となる観光客や登山者が多くおとずれることから、自然環境の保全・啓発を目的に実施したものです。



パトロール風景

汗をかきながら登った標高一、七四四メートルの初榎山頂上では、他の登山者から「登山道の安全確認や整備ですか。」と聞

かれ、「自然保護の啓発パトロールです。」と答えると、「自分たちも他の山の登山道整備をボランティアで行っています。」との返事、お互いに「ご苦労様です。」と声を掛け合う一幕もありました。

曇天で北アルプス等の眺望は望めなかったものの、ナナカマドが色づき始め、直径一メートル以上もあるブナやカツラの原生林の中を歩き爽快な気分となりました。パトロールでは、たばこの吸い殻や紙くずを少し拾ったくらいでしたが、参加者に紅葉期間中の自然環境の保全活動の支援をお願いし、合同パトロールを終えました。

ボランティア団体がふれあいの森で間伐作業等を実施

【飛騨署】十月八、九日、宮国有林内のふれあいの森において岐阜森林愛護隊員八名(隊長・榎添要一)が参加して森林整備などが行われました。

一日目の午前中は、飛騨署職員の案内で降雨の中、施業モデル林及び源流の巨人「宮の大イチイ」を見学しました。

施業モデル林は、明治四十三年植栽のヒノキとケヤキの混交林であり、両樹種とも競合状態にあり、形質・生長とも良好なことから、先人達の森づくりに感じています。

また、林野庁の森の巨人百選の「宮の大イチイ」は、樹高二十五メートル、幹周六・



間伐材を玉切る参加者

九メートル、推定樹齢二千年であり、弥生時代から歴史を見続けた壮大さに見とれていました。

午後は、大雨のため作業を中止し、県の担当職員がチェーンソーの取扱方法と伐倒作業方法の講習会を行いました。

二日目は、うってかわって青空がのぞく天候の中、木が混み合い下草も生えない箇所での間伐作業を行いました。

作業は二班に分かれ、初心者隊員もいることからそれぞれベテランの隊員が作業指導し交替でチェーンソーを用いて間伐作業を行いました。

木が混み合っていることから、伐つても倒れず掛かり木になることも多く、フエリングレバー(掛かり木はずし器具)などを使用し、懸命に作業を行いました。「林内が明るくなって気持ちいいな、来月もまた作業に来ます。」と言って汗を拭いていました。

に、住まいに関する各種講座や住宅資金・インテリアなどの相談コーナー、木とふれあいコーナー等があり、両日あわせて五千人を超える親子づれで賑わいました。

名古屋事務所からは、森林の各種機能や地球温暖化防止等のパネル及び木材軸組工法及び基礎の模型や、木材の見本などの展示により、森林の公益性や木のやさしさ・温もりについてPRしました。

また、当所のブースである親子木工教室では、職員が集めた木の実や枝などを使った壁掛けや置物作りを行い、受付開始間もなく定員に達する程の好評振りでした。

尾張旭市民祭に参加!

「名古屋事務所」「市民の交流及び豊かな市民生活の推進」を目的に十月八日、九日に尾張旭市民祭が開催されました。名古屋事務所からは八日に「素晴らしい木の世界」等のパネル展示と木工クラブ教室でステンシルを行いました。

当日はあいにくの雨の中、会場もグラウンドのため、大変足場が悪いにもかかわらず、開始時刻前から長い行列ができるブースがある等とても盛況でした。

名古屋事務所のブースにも靴を泥こにした親子や、友人のグループが八十人くらい訪れました。椿やりようぶ等の輪切り板を手にし、その木目の美しさに感心したり、しばらく手で撫でたりしながら、思い思いの作品に取り組んでいました。ステンシルが初めての人が多く、自分だけの壁掛けが完成すると、喜びの声が聞かれました。

参加した皆さんには木の良さ、木の美しさについて感じていただけた事と思います。



ステンシルを楽しむ来場者

販売協力者へ

感謝状を贈呈

「販売課」平成十七年度国有林野事業販売協力者の感謝状贈呈式が、十月十二日、木曾官材市売協同組合入札会場において土場活用委託販売と併せて開催されました。

当式は、管内における林産物の一般競争入札で、積極的に国有林材を購入し利用の促進に協力いただいた方々に対し、感謝状を贈呈するものです。

平成十七年度国有林野事業

感謝状受賞者(敬称略)

林野庁長官感謝状
 「立木販売の部」
 有限会社 ヤマカ木材

「素材販売の部」
 株式会社 勝野木材



感謝状の贈呈を受ける受賞者

中部森林管理局長感謝状

「立木販売の部」

有限会社 越材木店

丸真木材

有限会社 山宝産業

「素材販売の部」

池田木材株式会社

嶋田木材株式会社

のむら木材株式会社

大桑木材工業株式会社

有限会社 河合材木店

ウォーキングガイド

「北信濃の森を歩こう」出版

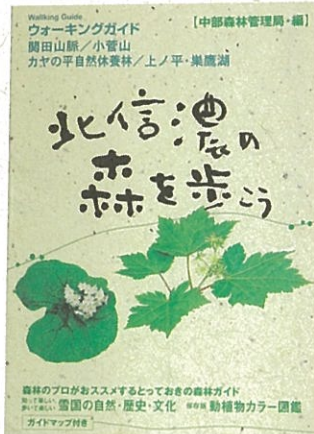
「国有林野管理課」北信濃にはブナ等の天然林が広く分布し、「カヤの平自然休養林」を始め、多くのレクリエーションの森が設定されている外、地方公共団体による森林セラピーの取り組みがなされるとともに、NPO法人やボランティアが積極的に活動しています。こうしたことを背景に、国有林を多様な形で活用するモデルプロジェクトとして「北信濃くらしと健康を支える森林づくり」を進めています。

今回、同プロジェクト等の調査で得られた自然・地域資源に関する情報を活用して、自然休養林のマップや地域の森林・木材との関わり、動植物の図鑑や見どころ、歴史を紹介するカラー判のガイドブック「北信濃の森を歩こう」を出版

しました。

この売り上げの一部はレク森における「森林環境整備協力金」に活用することになっており、より多くの方々にこのガイドブックが活用され、「国民の森林」を身近に感じていただくことを期待しています。

お問い合わせは、中部森林管理局国有林野管理課森林利用係。一冊一、八〇〇円で購入できます。





木立の中から望む千ヶ滝

『千ヶ滝とせせらぎの道』

ふう けい き こう
風景紀行
 上信越高原国立公園
 せんがたき
千ヶ滝とせせらぎの道
 東信森林管理署
 (各署の景勝地等を紹介)

千ヶ滝は中軽井沢の北に位置し、その周辺には別荘・美術館・温泉等が点在するなど、旧・新・中軽井沢に次ぐ新たな観光地的要素を有する場所として注目されています。

す。滝へは駐車場から一・五キロ、徒歩で約三十分ほど歩くと二十以上の高さから、まるでシヤンパンガラスを積み上げたような岩石に向け、滝水が落下する名勝「千ヶ滝」が現れます。滝は、うっそうとした木立に囲まれ、周囲の景観とともに四季折々の美しい風情を見せてくれます。

また、滝へとつながる遊歩道「せせらぎの道」の周辺には、カラマツ、ミズナラなどの森が広がり、多くの野鳥も見られます。途中には、温泉がわいている場所があり、触ると暖かく回りの水より明らかに温度が違うのが実感できます。遊歩道には木をふんだんに使用し、水遊び場を設けるなど、家族連れの手軽な

ハイキングコースとして大人から子供まで楽しむことができる場所となっております。軽井沢に訪れる際は立ち寄ってみてはいかがでしょう。



せせらぎの道の途中にある水遊び場

◇アクセス方法
〔公共交通機関〕

JR長野新幹線「軽井沢駅」、しなの鉄道「中軽井沢駅」より「草津温泉行」のバスを利用。「軽井沢千ヶ滝温泉ホテル入口」で下車後、セゾン現代美術館を経由して千ヶ滝駐車場まで徒歩で約四十分。

〔マイカー〕

上信越自動車道碓氷軽井沢ICから「中軽井沢駅」を経由して千ヶ滝駐車場まで約四十分。

行事・イベント等の予定

- ◎ 絵画コンクール表彰式
10月23日 愛知所管内
- ◎ 未来世紀につなぐ緑のバトン
10月22～23日 長野県王滝村
- ◎ 金曜会国有林視察
10月27日 木曾署管内
- ◎ 指導普及連絡会
11月10～11日 木曾・中信署管内
- ◎ 名古屋シティ・フォレスト事業
11月11日 東濃署管内
- ◎ 森林ふれあい講座
11月12日 名古屋市内
11月23日 愛知所管内
- ◎ 国有林野等所在市町村長有志連絡協議会
11月24日 長野市